



2007年5月15日NALC事務所にて

人のために尽くした時間を積み立て、いざという時に自分や家族に使うことができる「時間預託制度」を導入した、全国規模のボランティア団体「ニッポン・アクティブライフ・クラブ」(NALC=ナルク)。会長の高畑敬一さん(77歳)は「本当の生きがいは人様に尽くすこと」と、組織運営に奔走する。生きがいを模索するシニアの先導者でもある。

第二の人生を開拓

大学卒業後、松下電器産業に入社。労働組合委員長、常務取締役を務め、企業の発展に貢献した。定年が近づいた頃、「この先どう生きていこう」と真剣に考え始めた。「最も輝ける人生にしたいがどうしたらいいか」。

そのヒントになったのが、哲学者・教育者の故・森信三氏の本だった。「60歳からの人生がその人の真価を決める。現役時代の何倍も緊張感を持って生きるべきだ」と。自分にはボランティアしかないと確信した。

かつて訪れたアメリカで知ったボランティア団体「全米退職者協会」をモデルに1994年、ナルクの前身となる「WACアクティブクラブ」を設立。「継続的なボランティア」を目指した全国組織のボランティア団体として発展し、現在は127支部、26,500人の会員を有するまでに成長した。

ボランティア活動時間を預託

ユニークな取り組みとして注目される「時間預託制度」は、ボランティア活動1時間を1点として通帳に記録していき、自身や身内に人の手が必要になった時に引き出せるもの。自分が貯めた点数を遠方に住む親などに使えるのも全国組織がなせる業だ。

「使わないまま、元気にこころと死にたいというのがみんなの希望。あくまでも愛情とふれあいの論理に基づくもので、イベント型ではなく、継続してやるための一つの道具」。

また、夫婦で入会する会員が多いのも大きな特徴である。自身もホームヘルパー3級の資格を取って高齢者介護に携わるうちに、地域の仲間を集めるためにも女性の力が必要だと痛感し、伴侶を誘っての入会を推進。2人でも1人分の会費に設定したことも功を奏した。「共通の話題ができて夫婦仲が良くなった」と嬉しい声も届く。

団塊の世代は期待大

会員の増加とともに活動の幅を広げ、現在は「高齢者介護」に加えて「子育て支援」「環境美化」にも重点を置く。より充実した活動を行うため、「300拠点会員6万人」を目標とした「組織拡大5か年計画」も推進中だ。

団塊の世代への期待も強い。「3年前に意識調査した結果、団塊の世代は定年後、仕事、趣味や旅行、ボランティアとの三位一体でバランスある生活を望んでいる。そして、地域のボランティア参加意識が強いことが分かった。ナルクはその大きな受け皿。日本の高齢化社会はあまり心配しなくてもいい」と太鼓判を押し。

多忙な日々だが、健康のために毎日一万歩歩くことを日課とする。楽しみは、全国の支部を回って同じ志を持つ仲間に出会うこと。学生時代に恩師からもらった言葉「万象みな師」を座右の銘に、謙遜にしてひたむきに納得のいく人生を歩んでいる。

(文・江中咲紀 / 表紙写真・高島悠介)

CLOSE
クローズアップ
UP

シニア力引き出し社会貢献、 時間預託制ボランティアで 輝ける人生を

プロフィール

「ニッポン・アクティブライフ・クラブ」
(NALC=ナルク)会長

たかはし けいいち
高畑 敬一 さん



1929年、富山県生まれ。50年松下電器産業(株)入社。63年～82年同社労働組合中央執行委員長。83年に取締役、90年に常務取締役に就任。電機労連大阪協議長、全日本金属労協関西地連議長などを務め、大阪民労協、全民懇を結成し「連合」の基礎を作る。94年に「WACアクティブクラブ」設立。99年に経済企画庁から全国ネットのNPO法人として認証され、NPO法人「ニッポン・アクティブライフ・クラブ」として全国規模でボランティア活動を行っている。著書に『決断と人生』『定年。ゆとりボランティアの愉しみ』『定年前後から始める楽しい勉強法』など。「関西で歌舞伎を育てる会」の代表世話人。